

# 子どもをささえる絵本の力

一戸盟子 (福音館書店 月刊誌編集部長)

私たち福音館書店では、子どものために、子どもの幸せを願って本作りをしています。

絵本は子どもの目の前に置いただけでは意味がなく、大人が読んであげることで初めて子どもの心に届きます。そして、絵本を読むことで、大人と子どもの間に信頼関係が生まれ、愛情が育まれます。子どもが育つにあたっては、親をはじめ身近な大人から愛されたという記憶が何より大事と考えます。身近な人からの愛情は、その人の生きる力の根本になると信じています。根っこにそのようなものがあれば、その後の人生で困難なことに遭遇しても、必ず乗り越えて生きていけるでしょう。

当日は、子どもに向けてどういう思いで本を作っているか、私が担当した幼い子向けの絵本がどうやってできていったか、ラフスケッチなどをお見せしながら、具体的にお話したいと思います。著者の方とどのように打ち合わせを重ね、どんなふうに丁寧に絵本を作っているかもお伝えしながら、これから生きる子どもにとって絵本がどれだけ大切で素晴らしいものか、お話できればと思います。